

第119回 医療技術者研修会

『患者の訴えから考える薬の副作用』

主催 財団法人東京保健会 病体生理研究所

副作用のない医薬品は存在しません。条件がそろえばいつ誰に起こっても不思議ではないわけです。患者さんの訴えや様子、表情に対して「あれ?」「何かおかしい?」「ちょっと気になる」と感じ、それを、患者の問題点としてとらえ、解決する努力をする責任が薬剤師にはあると考えます。

なぜなら、薬剤師は社会から「薬の専門家」としての職能発揮ばかりではなく、「薬の責任者」として、「患者側の最後の砦」として医薬品の安全性を確保する職能発揮を求められていると考えるからです。

副作用を攻略するアプローチ法の一つは、「臓器の働き」をよく知ることです。つまり、その臓器が生体内でどのような役割をしているかを理解すれば、おのずとその臓器が障害されたらどのような症状が起きるかが理解できます。

そして、もう一つのアプローチ法は、医薬品をよく知ることです。薬理作用を理解し、物理化学的性質と体内動態を理解すれば、おのずとその薬剤がどのような副作用を起こす可能性があるかが予測できます。一緒に考えてみたいと思います。

日 時	2011年1月22日(土) 午後2時30分～午後4時40分
会 場	プラザ・フォレスト(全林野会館)6F「604号」会議室
講 師	大津 史子(おおつ ふみこ)先生
対 象	薬剤師・ほか各医療職
定 員	70名(申込は先着順・定員で締め切ります。あらかじめ御了解ください)
参加費	無 料

申し込み方法

- 1、下記の申込書にもれなく御記入のうえ、FAXまたは郵送でお申し込み下さい。
(記入もれなど不備がある場合には、受講票が送付できなくなります。必ず全て御記入ください)
- 2、申込者あて開催日前までに受講票をFAXで送付します。当日必ずお持ち下さい。
- 3、締め切り後の申込者へは速やかに「締切済」通知をFAXで送付します。悪しからず御了解ください。

※ ※ ※ 下記の各項すべてにご記入のうえお申し込みください ※ ※ ※

2011年1月22日(土)『患者の訴えから考える薬の副作用』研修会受講申込書

勤務施設名	職 種	申込者氏名(フリガナも)
施設住所 〒()		
TEL () FAX ()		

申し込み先 〒173-0025 東京都板橋区熊野町47-11

(財)東京保健会 病体生理研究所 医療技術者研修企画係

問い合わせ用TEL 03(3956)4120 申し込み用FAX 03(3956)4102

講 師

大津 史子 先生

名城大学薬学部 医薬品情報学 准教授

略 歴
現 職等

神戸薬科大学卒業、名城大学薬学専攻科修了、薬学博士
現在 名城大学薬学部医薬品情報学准教授

著書論文等

「患者の訴えから気づく薬の副作用」(『月刊薬事』全50回連載、1997～2002年、共著)
『医薬品情報学 第3版』(山崎幹夫監修、東京大学出版会、2005年、第6章分担執筆)

所属学会等

日本薬学会
日本医療薬学会
日本医薬品情報学会など

会場案内図

プラザ・フォレスト(全林野会館) 6F「604号」会議室

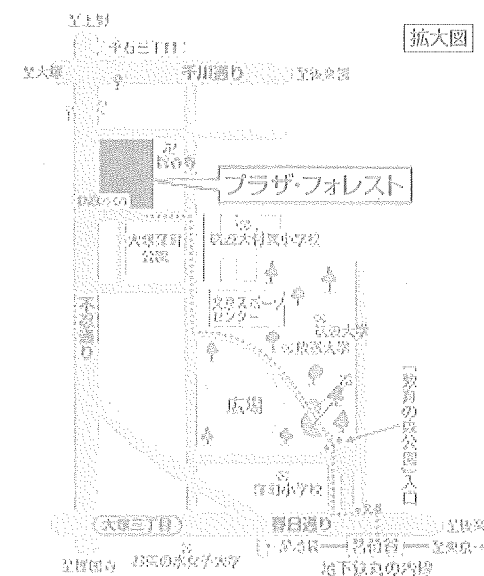
(東京都文京区大塚3丁目28番7号)

〔電話〕 03(3945)6871(代表)

交通機関

地下鉄丸の内線「茗荷谷駅」から徒歩7分 地下鉄三田線「千石駅」(A4出口)から徒歩12分
地下鉄有楽町線「護国寺駅」(3番出口)から徒歩12分
JR山手線「大塚駅」(南口)から徒歩20分

プラザ・フォレスト会館のご案内図



注記：本財団は個人情報保護法を遵守し、申込書に記載頂いた情報は、本研修会に係る受付・運営のみに利用いたします。申込の内容に関する照会・修正等につきましては左記「医療技術者研修企画係」へ御連絡をお願い致します。